

海南島近現代史研究会

第12回総会・第22回定例研究会

紀州鉾山の真実を明らかにする会が、石原産業の海南島での企業犯罪調査を主目的として海南島を始めて訪ねたのは1998年6月でした。海南島近現代史研究会の創立は2007年8月でした。

これまで、紀州鉾山の真実を明らかにする会は32回、海南島近現代史研究会は19回、海南島を訪ね、各地でおおくの人たちに、日本の侵略犯罪、海南島民衆の抗日反日闘争についての証言を聞かせてもらうとともに、韓国国内で海南島に連行された朝鮮人の証言を聞かせてもらい、日本国内で海南島侵略にかんする史資料を網羅的に探索し分析しつつ海南島に侵入した日本人に面会を求めてきました。

わたしたちは、国民国家日本の他地域他国侵略の時代を終らせる民衆運動の基礎を確かなものにしてきました。海南島近現代史研究会は会則で、「本会は、海南島における日本の侵略犯罪の実態を具体的・総合的に把握し、それが海南島の政治的・経済的・文化的・社会的な構造をどのように破壊したのかを究明し、その歴史的責任を追及します」、「本会は、海南島における抗日反日闘争の歴史を究明します」としています。

1998年6月から20年間の、わたしたちの海南島近現代史研究の軌跡と現状を報告し、今後、さらに具体的に何をなすべきかについて、みなさんと話し合いたいと思います。

と き：2018年8月18日（土）13時00分～17時（開場12時30分）

ところ：国労大阪会館 1階ホール JR天満駅改札口を出て右へ（桜ノ宮駅方向へ）200メートル
参加費・資料代：500円（会員は無料です）

主題：海南島近現代史研究の軌跡と現状、そして未来

- 主題報告 20年間に、何ができたか、何ができなかったか 佐藤正人
 - 主題報告 植民地朝鮮から海南島に連行された朝鮮人 金静美
 - 主題報告 海南島における日本の国家犯罪と日本人の「戦後」責任 斉藤日出治
 - 主題報告 海南島における侵略の事実を伝える 竹本昇
 - 報告 極東国際軍事裁判文書に記録されている日本軍の海南島侵略犯罪 2 日置真理子
 - 討論 海南島近現代史研究の意味と今後の課題
- 国民国家日本は、アイヌモシリ・琉球植民地化、台湾侵略、朝鮮侵略……の過程で、軍備を増強し、経済基礎構造を建設・強化してきました。日本国家の政治的・経済的・社会的・文化的侵略構造は、19世紀後半から現在まで変わっていません。いま日本政府は、「明治150年（2018年）」記念行事の準備をすすめています。日本の他地域他国侵略の構造を破壊する民衆の歴史認識について討論したいと思います。
- 報告 ピースおおさか改悪リニューアル裁判上告と「取り戻す会」の発足 竹本昇
 - 2018年秋の海南島近現代史研究会の20回目の海南島「現地調査」について

海南島近現代史研究会 <http://www.hainanshi.org/>

【事務局】 奈良市中山町200-191 斉藤日出治方